

令和2年度「オリンピック・パラリンピック・ムーブメント全国展開事業」

事業実施報告書

- | | |
|-----|------------------------------------|
| I | スポーツ及びオリンピック、パラリンピックの意義や歴史に関する学び |
| II | マナーとおもてなしの心を備えたボランティアの育成 |
| III | スポーツを通じたインクルーシブな社会（共生社会）の構築 |
| IV | 日本の伝統、郷土の文化や世界の文化の理解、多様性を尊重する態度の育成 |
| V | スポーツに対する興味・関心の向上、スポーツを楽しむ心の育成 |

道府県・政令市名【 長野県 】

学校名【 長野県伊那養護学校 】

1 実践テーマ	I・II・III・IV・ V (複数選択可)
2 実施対象者 (学年・人数)	<ul style="list-style-type: none"> ・小学部 5年生 11人 ・中学部 全学年 52人 ・高等部 全学年 90人 ・中学部分教室 全学年 5人 + 分教室設置校(駒ヶ根市立東中) 全学年 187人と職員
3 展開の形式	(1) 学校における活動 <ul style="list-style-type: none"> ① 教科名 (体育) ② 行事名 (人権講演会) ③ その他 () (2) 地域における活動 <ul style="list-style-type: none"> ① イベント名 () ② その他 ()
4 目標 (ねらい)	パラリンピック種目のボッチャを体験したり、パラリンピアンとの体験談を聞いたりすることで、スポーツに対する興味・関心を高めスポーツを楽しむ心を育成する。
5 取組内容	・パラリンピックメダリストの加藤正さんをお招きし、児童生徒対象にボッチャについての講習会を行い、ボッチャというスポーツを理解する。実際に体験してみて、その楽しさに触れる。



- 体育等でボッチャを体験し、日常的に慣れ親しむ。
- 学級レクや親子レクなど、日常生活の中でもボッチャに自由に取り組める環境を用意する。



- 希望者でボッチャの競技会に参加し、競技としてのボッチャの楽しさを感じる。
- 長野県出身で長野パラリンピックメダリストの体験談を聞くことで、スポーツを身近に感じ、スポーツに前向きに取り組もうとする心を醸成する。



- 講演会を分教室設置校と共同開催とすることで、お互いの立ち位置や関係性を考えるきっかけとする。



<p>6 主な成果</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ボッチャを体験した児童生徒は、ボッチャの魅力に触れ楽しさを感じたことで、体育の授業や、学級の時間を使って日常的に取り組む姿が増えた。 • 競技としてのボッチャの魅力を感じた生徒の中には、ボッチャの公式大会に出る生徒も出て、地区大会で1位と2位になった。 • 部活動として日常的に取り組みたいと申し出る生徒も出てきた。 • 分教室の生徒が設置校の生徒たちと一緒に視覚障がい者の井口深雪さんの生い立ちや、競技との出会い、競技生活、結婚、などの話を聞くことで、共生社会やノーマライゼーションを考えるきっかけとなり、生徒相互の理解促進にもつながった。
<p>7実践において工夫した点(事業の特色)</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ただボッチャに取り組むのではなく、伊那在住のパラリンピアン加藤正さんの手ほどきを受けることで、より興味関心をもって協議と出会うことにつながった。 • 講演会の講師も、長野県出身の井口さんを選定し、長野パラリンピックの金メダルを見せてもらうことで、より講師を身近に感じたり興味を持って聞いたりすることにつながった。
<p>8主な課題等</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ボッチャに取り組むには、コートの設営が必要となる。(必須ではないが) • ボッチャセットがまだどの学校にもある訳ではないので、所有している団体から借りる必要がある。一定数まとめて持っている場所が少ないので、みんなでやりたいときには複数団体から借り集めなくてはならない。 • 今回の井口さんは視覚障害者で電車移動をしてくるため、居住地(つくば市)から招くのは基本的に難しい。また、バイアスロン競技で使うビームライフル銃は、本校職員が井口さんの恩師であり、扱い方が分かっていたので簡単にセッティングして実演ができたが、専門知識のある職員がいない場合は、実演を交えた講演会の実施は難しい。
<p>9来年度以降の実施予定</p>	<ul style="list-style-type: none"> • ボッチャについては、体育の授業等、日常的な取組みにしてい く。生徒の希望によっては部活動化も検討中。 • 競技思考の生徒については、来年度以降も大会出場、上位大会進出を目指して活動していく。 • 講演会については実施予定なし。